①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・4年「1けたでわるわり算のひっ算」で，2位数÷1位数，3位数÷1位数のひっ算の仕方を学習している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・96÷32を，90÷30とみなして仮商を立てる考え方を学習している。

≪学習問題≫

色紙が175まいあります。35人に同じ

数ずつ配ると，1人何まいになりますか。

教材研究ノート№4-A-6

≪学習問題≫

主眼

授業計画･実施記録

②見通し：割られる数が増えたので，どこで分けて考えればよいか

分からない。

→　96÷32を90÷30と考えたように，割られる数も割る数も10のかたまりと考えて仮商を見つけるとよい。

②学習課題：10のまとまりと考え，商がどの位から立つか考えて

ひっ算の仕方を考えよう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究：絵図をかいたり手でかくしたりして，仮商の立て方を考え，ひっ算の仕方を説明する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どのやり方にも共通していることは何だろう？」

→「175÷35を170÷30と考えて，仮商を立てて計算している。」

④共同追究後半（思考を深める）

「170÷30を，17÷3と考えて，十の位に仮商を立ててはいけないのだろうか？」

→「十の位に仮商を立てると，170÷3の計算になってしまう。」

「17÷3から仮商を5と見当付けることはできるが，170÷30の計算をしているので，仮商は一の位に立つ。」

⑤まとめ（子どもの言葉で）

・割る数が2けたになっても，まとまりをつくって仮商を立てる。

・÷1位数のときと同じように，立てて→かけて→ひいて→おろすの手順で計算している。

⑥定着･活用問題

次の計算をひっ算でしましょう。

(1)124÷31　　(2)486÷54　　　(3)155÷46　　　(4)110÷35

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・課題把握で実際に色紙を分けてみて，およそ何枚くらいかを予想させて計算の結果と比べさせるとともに，商のたしかめをさせることで，解決の過程を見返し修正していけるようにしたい。

・ひっ算の形式的な計算方法の理解にならないように，算数的活動を通して追究させ，「1けたでわるわり算のひっ算」と同様に仮商が立てられることを確認し，説明させたい。

≪定着・活用問題≫

【板書計画】